



伊基道建第 P94 号
平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 様

伊丹市長 藤 原 保



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付 国道企第 37 号で依頼のあった標記について、別紙のとおり回答いたします。

連絡先 伊丹市都市基盤部道路公園室道路建設課
電話 072— 784— 8060

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案等

《(真に必要な道路整備)は、計画段階から住民の参画により合意形成を図りつつ、総合的に判断し、拡幅等による改良事業についても事業手法・コスト縮減・維持管理での地域住民の協働等を勘案し、短期間に集中的に対応することが肝要である。》

○厳しい財政状況から、都市計画道路整備のみならず市道の危険箇所解消への支援や、効率的な維持管理を行うための財政的支援を要望する。

○生活道路の整備(狭小道路の拡幅、ストックの老朽化による危険個所の改良、歩道の拡幅新設等)において、身近な要求に係る財源の確保や整備に係る財源使途については、地方の裁量に任せて貰いたい。

○地方道路整備臨時交付金を存続させ、安定した財源を確保されたい。

② 地域の現状や課題及び目指すべき将来像

②-1 現状	課題	②-2 地域を目指すべき将来像
○計画道路は概成(約 8 割が完了)しているが、行き止まり道路や未着手区間も残る ○生活道路の歩行者・自転車利用者の安全性確保が十分とは言えない ○バス路線等での道路狭隘部解消・拡幅や通学路での通行帯確保の要求が多い	○計画的整備により交通ネットワークを形成し、交通渋滞を解消することと、既存ストックの改良等に対するニーズをどう調整するかが課題 ○未整備区間の整備について地域の実情に即して、また、社会情勢や財政状況に対応しつつどう優先順位付けするかが課題 ○限られた財源の中で、安全対策等に関する地域住民の合意形成を図り、集中的に投資し、生活道路等での当面の対策を如何に計画的に実施するかが課題。	○地区の特性を活かした道路整備と、歩行空間確保・緑化等道路の質を高める ○空港を活用した阪神間の地域間交流や産業・商業の活性化を図る ○公共交通の優先性や、自転車・歩行者の移動の快適性を高めるべく、地域拠点から中心市街地、JR 伊丹、阪急伊丹駅等の交通拠点との交通ネットワークの既存施設を効率的に活用しつつ移動手段の快適性や選択性の自由度の拡大を目指す

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価など)

重点事項	代表事例	期待する効果や評価等
○阪神間南北及び大阪北部間地域の活力と交通利便性を向上させる	○尼崎港川西線の全線完成、塚口長尾線の一部完成、伊丹飛行場線・尼崎宝塚線での全線事業中	○完成路線(区間)では交通渋滞の緩和や、住宅密集市街地の防災性の向上、緊急避難路の確保等に関して相当の効果が上がっている 未整備区間では、今後も即効性を上げるため重点的に投資し、圏域の交通利便性を高め地域産業の振興や、商圈の拡大に伴う商業の活性化を目指す
○人に優しい安全性の高い道路空間の整備	○補助幹線道路での環境への配慮や自転車・歩行者空間の拡大と電線類地中化等 西台中央線、宮ノ前線、(山田伊丹線は事業中、昆陽池緑地線は検討中)	○透水性、排水性を高めた舗装等の採用により自然環境への負荷軽減に寄与する 歩行者等の通行の快適性が高まった